

TEENKOKU

TEENKOKU

第9回
毎日展篆刻会展



2025年 会員賞 増渕耕子「丘壑獨存」

2025

8/30 sat - 10/26 sun

開館時間 | 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 | 月曜日(祝日の場合はその翌日)、9/24(水)～26(金)、10/22(水)～24(金)

入館料 | 一般200(150)円、小中高生50円、三館共通券600円 ※()内は20名以上の団体料金

※三館共通券は篆刻美術館・古河歴史博物館・古河文学館の三館を観覧できる共通券です

篆刻美術館

〒306-0033 茨城県古河市中央町2-4-18
TEL.0280-22-5611/FAX.0280-22-5915



篆刻美術館テーマ展

第9回 毎日展篆刻会展

てんこく びじゅつ かん

篆刻美術館



■「毎日書道展」と「毎日展篆刻会」

毎日書道展は、今年で76回展を数える歴史と伝統ある書道展です。古河市とのつながりは古く、古河出身の大久保翠洞(1906-1997)の刻字部門での活躍、毎日書道会評議員を務めた立石光司(1927-2002)は篆刻美術館の設立・提言を行ったことでも知られています。

毎日展篆刻会は、毎日書道展の篆刻部門に出品する作家の有志が集まり、篆刻に関する調査研究、会員の研修と交流、啓蒙活動を目的として平成27年に結成されました。同会結成後には篆刻美術館で開催されていた「毎日展の篆刻」を名称変更し、「毎日展篆刻会展」として再スタートしてから今回で9回目を迎えます。

本テーマ展では、毎日展篆刻部門の代表作家である審査会員と会員に加え、会員の中から1名選ばれる会員賞をはじめ、公募の受賞者を迎えて展示いたします。

■古河市のランドマーク 「篆刻美術館」

当館は平成3年(1991)に日本初にして唯一の篆刻専門の美術館として開館し、平成10年(1998)には石蔵の建物が国の有形文化財に登録されました。篆刻とは印章から発展したもので、漢字の古い書体である篆書を石や木などに刻し、朱色の印泥を付けて紙に捺したものを鑑賞します。当館では、古河出身の生井子華(1904-1989)の作品を中心に作品を収蔵・展示しています。

交通のご案内

- JR宇都宮線古河駅西口から徒歩約8分
- 東武日光線新古河駅から徒歩約25分
- 古河市循環バスぐるりん号西コース「22篆刻・街角美術館」下車
- 東北自動車道久喜ICより約40分
- 加須IC・羽生IC・館林ICより約30分
- 圏央道境古河IC・五霞ICより約30分

※駐車場は篆刻美術館より道路を挟んだ向かい側にございます。

